

Merced River (マーセッド川)

牧野 廉

1) Merced River

アメリカ合衆国カリフォルニア州の大都市サンフランシスコから車で3時間、シエラネバダ山脈の溪谷に、世界に名立たる自然世界遺産、ヨセミテ国立公園がある。国立公園に指定されて以来 120 年もの古い歴史を持つこのヨセミテ国立公園は、氷河によってできた壮大な溪谷、巨木セコイア、高山性植物などの素晴らしい大自然に囲まれており、年間 400 万人という全米屈指の数の観光客が世界中からヨセミテの地を訪れる。ハーフドーム(Half Dome)、ヨセミテ滝(Yosemite Fall)、エルキャピタン(El Capitan)、セコイア群などの著名な名所を擁するヨセミテであるが、そんなヨセミテ国立公園の地にも一本の重要な川が流れている。それが、今回取り上げた川、**Merced River** だ。



Half Dome と Merced

2) 川の様子

ヨセミテ国立公園の溪谷に源流を持ち、その川の多くが国立公園の保護エリアにあたるため自然保護の整備がされており、第一印象として非常に水の澄んだ綺麗な川である。公園内の道路と川がずっと並行しているため、車に乗りながら **Merced River** の様子も観察できる。たとえば、源流の方に近づけば、溪谷の上部から降り注ぐ **Nevada Fall** が見ることができ、溪谷内部においては平らな土地をゆっくりと川が穏やかに流れ、さらに少し下れば、河口に向けて一気に流れが急になっている様子が見える。川には、ニジマス、ブラックバスなどの魚がおり（いくつかは外来種だが）、時折、野生のシカや黒クマなども川付近で見ることができる。また、公園内においては **Merced River** を利用したレジャーも盛んで、家族連れで川のそばでのキャンプ、釣りやラフティングなどは人気が高い。ただし、夏になると水が少なくなり川の水位が激減する。これには、昨年の冬の降雪量が密接に関って

おり、近年では地球温暖化に伴いシエラネバダ山脈で降雪量が低下していることから、夏になると深刻な水不足問題が起きている。他に面白い点として、Merced Riverには文化的価値もあるということだ。というのも、国立公園ができる前までは先住民との Merced Riverには深い関係があり、先住民の人々は Merced Riverの近くに居住エリアを築き、その川の恩恵を受けていたのである。



Nevada Fall



Yosemite Valley

3) 自分と Merced

今回 Merced River を取り上げた理由にやはり一番かかせなかったのが、自分と Merced River との関係性である。今でも忘れられない思い出となったのが、2007年大学一年生の夏。ICU-the U.S National Park Service internship program の第1期生として、2ヶ月の間、僕はヨセミテ国立公園において環境保護インターンを行った。学生ボランティアとして環境保護をしながらアメリカ国立公園の大自然を肌で感じられるのだ。このプログラムにおいて僕は、ヨセミテ国立公園内における Natural Resource Management(自然資源管理)の the Division of Physical Science に所属し、主に、Merced River の水質調査、公園内の大気成分の調査、外来植物の駆除、火事、騒音モニターなどの仕事に携わった。アメリカ国立公園という発達した自然管理システムに感銘を受け、また、自然科学という自分にとって不得手とする分野の中で自然を感じながら働いたことは、自分にとって非常に大きな財産となった。具体的に Merced River の調査においては、特殊精密機械を使った水質の調査や水位の調査が主な仕事であった。僕たちが、山の奥にある Merced River 源流部の水をひたすら歩いて取りに行き、その水を大学の教授のもとに送って研究調査に使われるといった形だ。Isotope や pH、水温、水位などを、川の各ポイントを定期的に調べていたのを覚えている。具体的な研究結果を詳細に知ることはできなかったが、大量の観光客による大量の車排気ガスやごみ問題などから川が汚染されていること、そして先にもあげたように、温暖化に伴う冬の降雪量の低下による水不足問題があることが分かった。



水質調査の機械



大気成分の調査

4) 昔の Merced

今現在、Merced River は“Wild and Scenic Rivers”法により“a Wild and Scenic River”に 1987 年に指定されており、そのエコシステムや地形を守るために自然保護がされている。この法律は、観光客の公園使用による自然に対する影響をできるだけ減らすようにするためにできたもので、「自然のまま」の姿をできる限りに残すようにするのが目的だ。しかし、この法律ができる前まで、(そして今現在でもだが)、この観光客の使用影響が深刻であった。顕著な問題としてあったのが、川の地形の浸食である。観光客をより多く受け入れるため公園へのアクセスとなる道路を川沿いに増設したところ、川の地形をあまり考慮に入れずに建設されたため、水流や勢いなどが元の自然状態から変わってしまい、地形が浸食されているというのだ。他に、パークレンジャーから聞いて唖然としてしまったのだが、1900 年代前半の国立公園の Merced River では、観光客を楽しませるために公園局自らが外来種の魚を放流していたという話もあった。

5) Web での Merced

ヨセミテ国立公園のホームページに行くと、Merced River Plan というプロジェクトにアクセスできる。Merced River をどのようにして保護していくのか、私たちひとりひとりができることは何なのか。アメリカの国立公園では、公園局が積極的に公に対して自然保護の説明および運動の声掛けを行っており、観光客にとっては非常にわかりやすい仕組みになっている。

Yosemite National Park, Merced Wild and Scenic River

<http://www.nps.gov/archive/yose/planning/mrp/2000/>

6) Merced の在り方

上記にあげたような、車の排気ガスによる川の汚染の問題や、地形の浸食、外来種の問題など、Merced River にもさまざまな環境問題がつきまとうが、その根本にあるのは、すべて「自然保護」と「エンターテイメント」という対立概念のコンフリクトだ。そして、このコンフリクトをバランスよく解決するのが国立公園局の仕事であり、ミッションである。公園に人が押し寄せれば押し寄せるほど、自然に対する影響は確実に強くなってしまう。それでも、観光客はヨセミテの自然を満喫したいし、さらに自然遺産という名前が人を呼んではさらに人を呼ぶ。そして皮肉にも、観光客は自分がその自然の破壊に加担しているということに気付かない。しかし、はたして人々をヨセミテの地から排除すればいいのかというと、そういうわけにもいかない。年間 400 万人という膨大な数字の観光客が訪れるヨセミテ国立公園においては、世界のどこよりもこの対立が浮き彫りとなりやすく、実際にそれは問題となっている。だからこそ、ヨセミテ公園局では、観光客に対して必死の呼びかけをし、人々に協力を求めているのだ。一人一人の力は、マイナスにもなり、プラスにもなる。いかにこれをプラスにし、そして、いかに多くの人を巻き込むか。これが非常に重要だと思った。Merced River は、現在の人間が抱える環境問題のシンボルとなる存在であり、僕にとってそこには多くの学ぶべきことがある。